思いやりそして努力　奉仕そしてよろこび

りりい

VOL.6
2020年 秋号

社会医療法人
喜悦会グループ

那珂川病院
ちくし那珂川病院
二日市共立病院
オレンジハウス清和
デイサービスセンター清和

新型コロナウイルスに負けるな！

社会医療法人喜悦会 ちくし那珂川病院
院長 **渡邊昭博**

新型コロナ感染蔓延のまっただ中、患者様、ご家族の方には大変ご苦労をおかけしております。また喜悦会職員の皆様方も大変ご苦労さまです。

私たち人類はこれまでもペスト、コレラ、天然痘、結核、インフルエンザなど多くの感染症に打ちのめされてきました。しかしながら多くの感染症は、マスク、手洗い、うがいの徹底、清潔な生活環境などの基本的な感染対策で防ぐことが出来るものです。患者さんが未知の感染症を持っている可能性を常に考慮して対処することを、スタンダードプリコーションと言います。今回の新型コロナ感染症が、この考えを一般の方々の生活に取り入れる「感染症に強い生活」を心がけるきっかけになったと思います。今年春にはインフルエンザがほとんど見られなかったことはそれを証明しています。

さて新型コロナウイルス（COVID-19）は感染しても症状が出にくい人がいることや、症状が出る直前に感染力が最も高いなど、忍者みたいなやっかいなウイルスです。私が大好きな元ホークス小久保裕紀さんは「一瞬に生きる」というキャッチフレーズを掲げていました。行動を律し、日々一瞬も気をぬかないよう努力しましょう。そうしてもう一つ、誰もが新型コロナウイルス感染のリスクを持っています。感染した人をむやみに攻撃しないことをお願いします。大事なことはそれぞれが毎日体温を測定するなどの健康チェックを行い、おかしいと思ったら、進んで検査を受けることや自宅待機などの正しい対応を行うことだと思います。人類は今、その英知や人間性が試されているように思います。新型コロナウイルスに負けないよう頑張りましょう。

さて、当喜悦会は那珂川市ミリカローデン北側に新ちくし那珂川病院を建設中です。背振山や田園に囲まれたとても気持ちのよい環境です。近辺には多くの古墳群があり、奴国から吉野ヶ里にいたる歴史的な地域ではないかと考えています。

建設にあたりいろいろな文化財も発掘され、新病院玄関に展示する予定です。そのような環境の中、地域医療の中核を担う病院を作るため現在準備中です。まずは地域の皆様が安心して生活出来るよう頑張っていきたいと考えています。

病院理念は「信頼される医療を提供します。地域との共生をめざします。心のふれあいを大事にします。」としました。これは東京で100年以上続く老舗が大事にしてきた言葉です。これらを大切にして、末永く地域に愛される病院を目指していきたいと思います。

現在、経験豊富で、患者さんにやさしい医師達が集まってきています。職員みんなで患者さんやご家族に安心を届けられるよう準備や研鑽にはげんでいます。地域が異なる場所での再開は大変高いハードルばかりで、全国的にも大変まれな事業ですが、知恵を出し合ってなんとか乗り切っていこうと思っています。

福岡の有名な医師貝原益軒は「養生訓」に、「医者は仁愛の心を本とし、人を救うのを志とすべきである。自分の利益ばかりを考えてはいけない」と述べています。コロナ禍で敢然と立ち向かう医師、看護師の皆さんの姿をみると、まさに私たち医療職の使命がそこにあると思います。患者さん達の笑顔や感謝の気持ちを糧に医療に邁進していきたいと考えています。

建設中の新ちくし那珂川病院 外観 予定図

日本医療機能評価機構認定病院
社会医療法人喜悦会
那珂川病院

〒811-1345　福岡市南区向新町2丁目17-17
TEL.092-565-3531（代）　FAX.092-566-6460

http://www.nakagawa-hp.com
（携帯電話でもご覧いただけます）

緩和ケアだより

からだとココロを労わって
～今、自分のためにできること～

公認心理師･臨床心理士　紀（きの） 日奈子

新型コロナウイルスの感染拡大により、これまでとは違う生活様式を取り入れることが求められるようになりました。感染拡大防止のためには大切なことですが、生活の変化にストレスを感じるという方も多いのではないでしょうか。

気分がイライラする、疲れやすい、夜間よく眠れないなど、身体やこころの調子がいつもと違うと感じることがあれば、ストレスが溜まっていることが考えられます。

日本うつ病学会がホームページで公開している「新型コロナウイルス感染症の世界的大流行下における、こころの健康維持のコツ」では、ストレス下であっても規則正しい生活を心掛ける、体内時計が正確に働くように努めることで、つらい気分を和らげることができるとされています。そして、日常生活を規則的に送るための自己管理術として、日課を作ることや、定期的に電話やオンラインで他者との交流を持つこと、自分に合った起床・就寝時間を決めて一貫した睡眠リズムを保つこと、などが紹介されています。

気分安定のためにも生活習慣を見直し、できることから取り組まれてみてはいかがでしょう。当たり前にできていたことができにくい状況を経験している時だからこそ、“今、自分のためにできること、できていること”に注目してみると良いかもしれません。

いつも通り過ごしているつもりでも、気付かないうちに心身の疲労が溜まっていることもあります。「ちょっと疲れたな」と感じたら、ひと休みして、ご自身の身体とこころを労わってあげて下さいね。

参考資料

日本うつ病学会
「新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の世界的大流行下における,こころの健康維持のコツ」
https://www.secretariat.ne.jp/jsmd/gakkai/teigen/data/2020-04-07-2-covid-19.pdf

公益社団法人日本心理学会
「もしも「距離を保つこと」を求められたなら：あなた自身の安全のために」
https://psych.or.jp/special/covid19/Keeping_Your_Distance_to_Stay_Safe_jp/

緩和ケア病棟基本方針

1. 患者さん、ご家族に寄り添い、信頼される質の高いケアを提供する。
2. スタッフ一人一人が役割を自覚し、個々の良さを充分発揮できる。
3. チームが連携をとり、助け合い、認め合い、共に考える環境をつくる。

緩和ケア病棟目標

1. 患者さんに苦痛がなく、持てる力を信じ、発揮できるようサポートする。
2. 患者さん、ご家族の思いに心を傾け、寄り添う。
3. 患者さんの生活環境への気配りをし、人生の振り返りができる状態を整える。

ボランティアだより

～ 感謝 ～

ボランティアコーディネーター：山下公子

お昼過ぎ、病棟の談話室で音楽療法士やボランティアさんによるピアノ演奏が始まると、喫茶コーナーがオープンし、患者さんとご家族を笑顔で迎えて下さるボランティアさんの姿がありました。患者さんはもちろん面会中のご家族も一緒に音楽とコーヒーを楽しみ、またある時は、ボランティアさん手作りの美味しいスープを飲みながら絵手紙作りを楽しんだり…。病室では患者さんと傾聴ボランティアさんとの談笑や、癒やしのケア（マッサージ）が行われることもあります。

緩和ケア病棟では私たち医療従事者ではない、沢山のボランティアさんがチームの一員として、患者さんご家族へ居心地良い空間を提供して下さり、「よき協力者」「よき友人」のような存在で、患者さんご家族との繋がりを築いて下さっていました。

ですが、新型コロナウイルス流行…感染拡大防止に伴いご家族の面会は制限され、ボランティア活動も今年3月から休止となりました。談話室に響いていた笑い声や歌声、拍手も病棟から消え、静かな病棟となった今、癒やしの時間・空間を提供するには、医療従事者だけでは限界があることを改めて実感しました。

病棟開設から14年、ボランティア活動を中止するという前例はありません。ですが、人とのふれあいを取り戻すにはまだまだ時間がかかりそうです。それでもこのコロナ禍の中、「患者さんご家族が少しでも笑顔になりますように」とバルーンアートや絵はがきなど送って下さるボランティアさんもいて、支えて下さっている皆様に改めて感謝する日々です。

施設長着任のご挨拶

那珂川病院
デイサービスセンター清和
東 成幸施設長

平成25年１月４日に那珂川病院デイサービスセンター清和が開設され７年半経ちましたが、この度前任の山本施設長の後任として就任することとなりました。身にあまる重責ではありますが、任命されたうえは清和の発展のため全力を尽くしたいと思います。

私が那珂川病院のリハビリテーション部に入職したのは平成６年の３月でした。当時の病院は前近代的な建物で病室も廊下も狭くて暗く、特に風呂場が屋根だけの渡り廊下で繋がれており、冬場は寒風、夏場は熱風の中、患者さんが搬送されていたのを思い出します。リハビリテーション室も３階から渡り廊下を渡った先にあるオレンジ色の印象的な建物でした。こちらも老朽化しており雨が降るたびに雨漏りがしていたのを思い出します。

入職し26年の月日が経ちましたが歴代の院長の下、外観も医療の質も格段に向上し、社会や医療の変化に迅速に対応し、今でも日々発展している病院を見て26年間勤務させていただいたことに感謝している次第です。

プライベートでは樋口事務長、大國先生と忘年会でバンド演奏の出し物をしたのがきっかけで、植木師長、筒井先生、我那覇科長などが次々に参加し「ミッドリバー」なるバンドが誕生しました。福岡吉本の「おやじバトル」に「四十肩」というバンド名で参加し、準優勝をしたのがきっかけにブレイクし、医療を題材としたオリジナル曲を演奏する医療系ロックバンドとして世間に知られるようになり、ライブ演奏の依頼はもとよりテレビやラジオの出演依頼までが来るようになりました。

KBCの「アサデス」には「笑いで患者を癒す医者がいる」というタイトルで出演、今はコロナウイルスが世間を騒がしていますが、新型インフルエンザが流行した時には「手を洗おう」という曲でNHKの「おはよう日本」に出演しました。放送は没になりましたが「ナニコレ珍百景」からも「音楽室がある病院」ということで撮影に来たこともありました。

このように公私ともに充実した人生の後半を過ごさせていただいた那珂川病院に感謝すると共に、リハビリの経験と知識を生かしながら、１日も早く新しい業務に役立てるようになりたいと思います。なにとぞ、今後ともにご指導ご支援のほどころからお願い申し上げます。

新型コロナウイルス対策のテレビ取材について

ちくし那珂川病院看護部長　佐伯 輝子

新型コロナウイルスに対するちくし那珂川病院の取り組みの２つが、九州朝日放送で取り上げられました。その１つは、５月６日に放送の「物資不足アイデアで乗り切る地域医療」、もう１つは、５月15日に放送の「緊急事態宣言解除後の病院の動き」の紹介でした。

そもそも、取材を受けるきっかけとなったのは、私の友人がテレビ局に送った１通のメールでした。その内容は、「物資不足の中で、身の危険を感じながらも懸命に頑張っている医療者へのエールと、それを観て県民がしっかりとした予防行動をとってほしい」というものでした。

1 物資不足アイデアで乗り切る地域医療

国内での新型コロナウイルス（以下、コロナ）の最初の感染者は、１月16日に中国武漢から帰国した中国人でした。感染者は、２月に入り徐々に増え、３月には３桁となり、その頃よりマスク不足の傾向が表れ始めました。当院でも４月に入り急に入荷ができなく

なりました。１週間に1400枚必要なのに、150枚しか入荷できない事態となりました。コロナ感染者は日増しに増えて300人を超えるようになりました。私は、患者さんと職員をコロナから守らないといけない。どうにかしなければとすごく焦りました。そこで考えついたのが、マスクの節約のために、痰の吸引や傷の洗浄時はビニールを頭からかぶり、処置が終了したらビニールを捨てる。そうしてマスクの汚染を予防し、１日１枚の使用に節約するという策でした。

しかし、この方法は、看護師に負担をかけるし、看護師の人権も守らないといけないので決してよい方法であるとは思っていませんでした。しかし、命を守らないといけない。そんな葛藤の中で、思い切って看護師に相談しました。返ってきた言葉は「ちょっとカッコ悪いけど、後でこんな時代もあったのよと笑い話になりますよ、いいですよ」でした。その一言で私は、実施を決心しました。命を守るやむを得ない対策として、透明のレジ袋を探してきて使用を開始しました。使用に際しては、その都度患者さんに説明をして、不安感を抱かれないように配慮しました。

放映の最初に立川師長が、今から痰の吸引処置を受ける患者さんに説明する場面が映ります。「ちょとですね、今マスクが少なくなったので、マスクを守るために、怖いかもしれないけど、これをかぶらせてもらってもいいですか」とレジ袋を患者さんに見せて了解を得ています。患者さんも協力をしてくれます。しかし、いつまでもこの方法では看護師が可哀そう。次にフェースシールドを被りマスクを保護しようと思いました。しかし、フェースシールドはどこも品切れです。

そこで手作りに挑戦し、何度かの試作の後に100円ショップにある材料で、２分でできる方法に辿りつきました。かわいい動物のシールを付けたおしゃれなものができました。その後、こうした取り組みが全国版でも放送されたことで、かなりの反響がありました。全国からマスクやフェースシールド、手作りの防護服などの寄付とともにたくさんの励ましの言葉が寄せられました。全国の皆さんの優しさやエールをみんなで喜びました。また、困っている病院の現状を安倍首相（当時）に伝えることができたのではないかとも思いました。その後、国からもたくさんの物資が送られてきました。

2 緊急事態宣言解除後の病院の動き

この取材は、テレビ局からの依頼でした。緊急事態宣言解除に伴い病院の動きを取材したいとのことでした。当院は、コロナ感染拡大の中で、やむなく１カ月半も入院患者さんの面会を禁止していましたので、緊急事態宣言の解除後は、すぐにでも面会ができるようにしたいし、今がチャンスだと強く思いました。病院長に相談して５月14日に緊急の会議を予定していたので、その会議の様子を取材してもらいました。全面的な解除はできない。コロナが入らないように面会の条件や防護方法などについて、しっかりと対策を考えなければいけない。全部署の代表者が必死に意見を出し合い考えてくれました。その結果、「１家族１人15分」で、さっそく開始するように決定しました。

私は、今後、人の動きが活発になると徐々に感染者が増えて、また面会禁止にせざるを得ない時が来る。いい状態のこのタイミングを逃してはいけない。ワクチンができるまでは、ウィズコロナでウイルスとうまく付き合っていかなければいけないと思いました。

今回２回の取材を受け、地方版と全国ネットで計７回放映されました。取材時には、職員の皆さんの協力を得て、精いっぱい現状を伝えました。メディアは凄いもので、医療現場の実態を社会に訴えることができ、たくさんの共感を得ることができました。さらに、当院の職員は、自分の仕事に誇りと自信を深めることができたのではないかと思いました。このような成果が見られたので取材を受けてよかったと思いました。

放送後、いったんはコロナが収束したものの、現在は第２波が押し寄せてきています。大変な状況はまだまだ続きますが、どんな状況の中でも諦めずに、渡邊病院長を中心に、みんなで知恵を出し合い工夫し、タイムリーな対策を講じてこの難局を１つひとつ乗り越えていく所存です。

ただいま地域包括ケア
病床開設に向けて奮闘中

二日市共立病院 リハビリテーション科 開設

二日市共立病院 理学療法士 大久保 昭彦

５月中旬より、二日市共立病院にリハビリテーション科の開設のため着任いたしました。

６月に運動器リハビリテーション（Ⅲ）の施設基準を申請し、翌７月からは新たに常勤の理学療法士１名を迎え、２人体制で運動器リハビリテーション（Ⅱ）の施設基準にて運営しています。８月には医療ソーシャルワーカー（MSW）も入職し、ただいま地域包括ケア病床開設に向けて、日々奮闘中です。

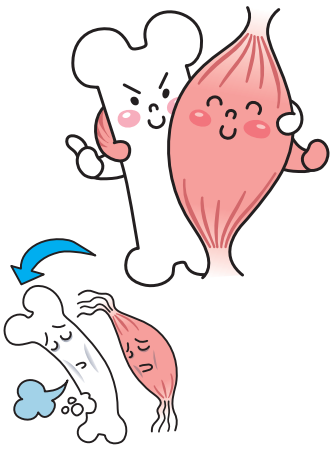
二日市共立病院は昭和41年に松風会二日市共立病院として筑紫野の地に開設された病院です。許可病床50床が医療療養病床で、内科・消化器内科・循環器内科を中心に運営してきました。

そして、いま、地域包括ケア病床の開設、病院機能評価の受審という目標に向かって一丸となって頑張っています。新たな取り組みへの不安もありますが、地域に根ざし、安全・安心、信頼と納得の得られる質の高い医療サービスを提供するために私たちには変化が求められています。

かのチャールズ･ダーウィンの言葉です。

> 最も強い者が生き残るのではなく、
> 最も賢い者が生き延びるのでもない。
> 唯一生き残ることが出来るのは、
> 変化できる者である。

変わることを恐れずに
心に喜悦を感じながら
二日市共立病院、勇往邁進して行く所存です。



ちくし那珂川病院
新任医師の紹介

副院長
横山 秀樹

出 身 地 北九州市八幡西区

出身大学 九州大学（昭和63年卒）

専門分野 呼吸器外科、肺癌の手術・薬物治療

診療方針 患者さんに判りやすい説明に心がけ、患者さんやスタッフに信頼される診療を目指します

趣　　味 特にありませんが強いて言えば読書（一時、宮城谷昌光にはまりほぼすべてを読みました）

自己紹介

４月末より当院でお世話になっています横山秀樹と申します。３月まで四国の松山赤十字病院呼吸器センターで勤務しておりました。昭和63年に九州大学を卒業し、勤務した病院は九州中央病院（研修医）、九州がんセンターと福岡での勤務が続いておりましたが、平成11年２月に別府医療センター（当時の国立別府病院）に異動となり、生まれ故郷の福岡を離れ、別府に８年、松山に13年勤務してきました。その21年の間に福岡は大きく様変わりし、今は浦島太郎の状態です。

喜悦会の理事長である下川敏弘先生は、大学医局の先輩であるのみならず肺グループの先輩でもあることからお声かけをいただき、当院で働かせていただくこととなりました。急性期病院を渡り歩き、専ら肺の手術や肺癌の抗癌剤治療などを行ってまいりました。

当院では慣れないことばかりで、渡邊院長や奥山副院長をはじめ、皆さんにいろいろお教えいただきながら、楽しく仕事をさせてもらっております。

現在は大橋に住んでおり、生まれて初めての電車通勤を楽しんでおります。これまでの不摂生で増加した体重を落とすべく、駅までの往復は早足で歩くように心がけております。最初は少し息が上がっていましたが、最近は駅に階段も比較的スムーズに上れるようになってきました。

今後ともご指導を宜しくお願いします。

社会医療法人喜悦会グループ　外来担当医予定表（2020年9月現在）

※外来担当医予定は都合により変更となる場合がございます。ホームページなどでご確認ください。

那珂川病院

■午前（診察時間／9:00～12:00）　※1 受付11時まで

診察室	月	火	水	木	金	土
診察室1	朔（第4のみ）（循環器内科）		竹下（完全予約）（糖尿病内科）	細谷（内科）	牟田（完全予約）（糖尿病内科）	片桐（第2・4のみ）（脳神経外科）
診察室2	立元（内科・禁煙外来）	立元（内科・禁煙外来）	安藤（循環器内科）	安藤（循環器内科）	森戸（循環器内科）	棚橋（第2.4.5のみ）
診察室3	筒井（内科）	今泉（循環器内科）	佐々木（内科）	藤澤（腎臓内科）	筒井（内科）	内科当番医
診察室5		池田（外科）	眞田（外科）	池田（外科）	眞田（外科）	外科当番医
診察室6	橋本（外科）	吉村（外科）	井上（麻酔科）	大村（脳神経外科）	吉村（外科）	瀬尾（第3のみ）（外科）
診察室7	大村（脳神経外科）			古田（外科）	ラウ（緩和ケア）	
診察室8	※1 齊田（整形外科）	月江（緩和ケア）	※1 齊田（整形外科）		※1 齊田（整形外科）	
診察室10		齋藤（泌尿器科）		齋藤（泌尿器科）		

■午後（診察時間／13:00～17:00）　※2 完全予約

診察室	月	火	水	木	金	土
診察室1		細谷（内科）	※2 竹下（糖尿病内科）		細谷（内科）	
診察室2	安藤（循環器内科）				末永（循環器内科）	
診察室3	ラウ（緩和ケア）		立元（内科・禁煙外来）	筒井（内科）		
診察室5	眞田（外科）	眞田（外科）			行實（血管外科）	
診察室6	橋本（外科）		大村（脳神経外科）	吉村（外科）	池田（外科）	当番医
診察室7		野中（脳神経外科）	古田（外科）	月江（緩和ケア）		
診察室10		泌尿器（担当医）（要予約）			齋藤（泌尿器科）	

診療時間　平日 9:00～17:00／土曜日 9:00～12:00

休診日　日曜・祝祭日・年末年始（12/30～1/3）
※急患はその限りではありません

住　所　福岡市南区向新町2-17-7
TEL：092-565-3531　FAX：092-566-6460

交通アクセス　西鉄バス系統番号3番・4番・47番・48番・49番・60番・61番・62番・600番台・W1-W3「那珂川病院前」下車すぐ

■駐車場150台

ちくし那珂川病院

■午前（診察時間／9:00～12:00）

診察室	月	火	水	木	金	土
診察室1	奥山 稔朗	坂上 雄紀	中山 敦貴	松永 洋一	野間 栄次郎	渡邊 昭博（第2、4、5）横山秀樹（第1、3）
診察室2	渡邊 昭博	横山 秀樹	渡邊 昭博	奥山 稔朗	髙宮 陽介	整形外科医

■午後（診察時間／13:00～17:00）

診察室	月	火	水	木	金	土
診察室1	横山 秀樹	坂上 雄紀	中山 敦貴	担当医	担当医	休診
診察室2	休診	横山 秀樹	奥山 稔朗	横山 秀樹	髙宮 陽介	休診

診療時間　平日 9:00～17:00
土曜日 9:00～12:00

休診日　土曜午後・日曜・祝祭日

住　所　〒818-0072
筑紫野市二日市中央3-6-12
TEL：092-922-2246
FAX：092-922-5994

交通アクセス
西鉄二日市駅（西口）より…徒歩約8分
JR二日市駅より…徒歩約5分

二日市共立病院

■午前（診察時間／9:00～12:30）

診療科	月	火	水	木	金	土
外来	重松 明博	重松 明博	重松 明博	重松 明博	重松 明博	第1・3・5 重松 明博
					消化器担当医	第2・4 竹中 理

■午後（診察時間／13:30～17:30）

診療科	月	火	水	木	金	土
外来	竹中 理	片桐 邦彦 循環器担当医（第2・4週）14:00～17:00	竹中 理	片桐 邦彦	竹中 理	休診

診療時間　平日 9:00～17:30
土曜日 9:00～12:30

休診日　土曜午後・日曜・祝祭日

住　所　〒818-0072
筑紫野市二日市中央2-10-1
TEL：092-923-2211
FAX：092-925-0415

交通アクセス
二日市バス停より…徒歩1分
JR二日市駅より…徒歩3分
西鉄紫駅より…徒歩5分